

# 須玖岡本遺跡

## かつて、この地に王がいた

今から約1800~2000年前の福岡平野一帯には、「奴国」と呼ばれる有力な国がありました。中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭奴国王が後漢の皇帝から金印を授かったことが記されています。

奴国最大級の遺跡で、王都と思われるのが、春日市の「須玖遺跡群」。そしてその中核的な遺跡が、岡本7丁目付近に広がる須玖岡本遺跡です。

須玖岡本遺跡で見つかった王や王族の墓、当時の貴重品である青銅器を大量生産した工房などについて紹介します。

問い合わせ先 文化財課調査保存担当  
☎(501)1144 ☒(573)1077

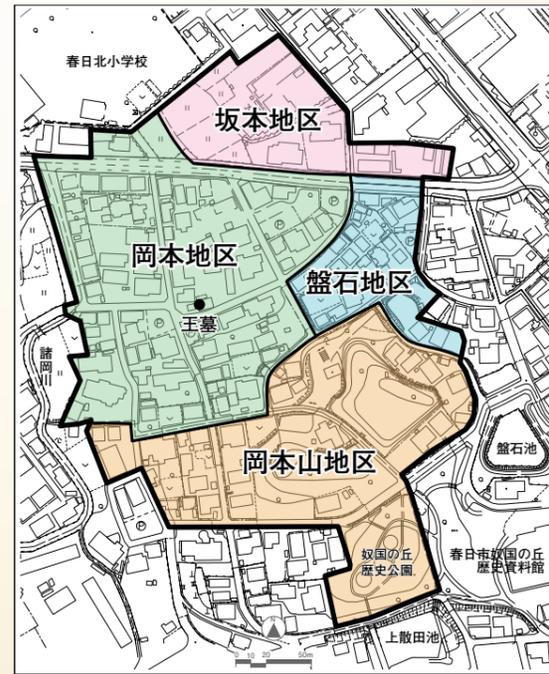
### 須玖岡本遺跡の4地区

市の中央にある小高い丘である春日丘陵。その北部と周辺に広がる弥生時代の遺跡が須玖遺跡群です。その規模は、南北約2キロメートル、東西約1キロメートルで、北は福岡徳洲会病院から南は大谷小学校周辺まで広がっています。住居跡、青銅器工房、墓地や水田などの約70の遺跡が途切れることなく続く巨大遺跡群です。

して整備されています。現在、地形や遺跡の種類によって、岡本地区、坂本地区、盤石地区、岡本山地区の4つに分かれています。

このうち、岡本地区は王や王族の墓地で、大きな土器を組み合わせて棺にした甕棺などからは高い比率で青銅器や玉などの副葬品が出土します。

また、坂本地区は「奴国の官宮工房」とも称され、たくさんの青銅器をつくったことが分かっています。



▲須玖岡本遺跡の4地区

### 王墓の発見

明治32(1899)年、須玖岡本遺跡岡本地区の一角で、家を建てる手伝いをしていた若者たちが、邪魔になった大石を動かしました。その石は神聖視されており、石の下には何かあると考えられていたため、周囲の人は掘ることを反対していましたが、若者たちは聞かずに掘り始めました。すると、甕棺が見つかり、その内外からは銅鏡、銅剣、ガラス玉類など、

たくさんの副葬品が壊れた状態で出土しました。

若者たちは、たたりを恐れて掘るのを途中で止めました。敷地の端にれんがで囲みを作り、その中に出土した副葬品を納め、動かした大石を乗せて元の状態に戻しました。

やがて、この話を聞いた研究者たちが、れんがの囲みを壊して中の副葬品を取り

出し、論文で発表しました。このため、須玖岡本遺跡の名が全国的に知られることになりましたが、副葬品は散逸し、さまざまな機関で保管されることになりました。

その後、九州大学医学部の中山平次郎博士によって、発見時の関係者への聞き取り調査などが行われ、副葬品の内容がおおむね明らかになっています。

研究者によって見解は異なりますが、銅鏡30面前後、銅矛、銅剣、銅戈などが10本程度、ガラス璧、ガラス勾玉、

ガラス管玉、水銀朱などおびただしい数が出土したことが分かりました。

特に、銅鏡は全て中国製の前漢鏡で、3面は直径20センチメートルを超えており、中国でも王侯クラスの副葬品である大型鏡でした。

璧は中国で儀礼や副葬品に使用されるものであり、中国から直接入手したと思われる。この甕棺の被葬者は、中国の皇帝から厚遇されていたと推察されます。

また、ガラス勾玉は5センチメートルを超える弥生時代最大級のもので、この甕棺墓の周辺には他の墓がなく、中山博士の調査や周辺の地形から、古墳のように人工的に土地を小高くし、甕棺を埋めたと考えられます。弥生時代のこのような墓は「墳丘墓」と呼ばれ、当時の有力者の墓にみられるものです。

この甕棺墓は、同時代の各地の遺跡と比較しても、副葬品の質や量が他を圧倒しており、「奴国王墓」、「須玖岡本王墓」などと呼ばれています。王墓の時期は、副葬品や甕棺の研究から紀元前1世紀後半で、西暦57年に中国の皇帝から金印を授かった王の数世代前の王の墓であることが分かります。



▲王墓発見のきっかけとなった大石(現在は「王墓の上石」として奴国の丘歴史公園に展示中)



▲奴国王墓の復元ジオラマ



▲王墓の副葬品の模造品(奴国の丘歴史資料館で展示中)

## 王族墓と副葬品

王墓の北西側には、弥生時代の墓地が広がっています。王墓よりも100年ほど古いものから100年ほど新しいものまであり、高い比率で副葬品が出土します。弥生時代の貴重品である青銅器などが副葬され、墓坑(墓穴)は通常より2倍以上あるなど、埋葬方法が手厚いことが分かります。一般的な墓とは異なるため、有力者である王族が埋葬されたことは明らかです。

発掘調査が行われる前から銅鏡、銅剣や玉類などが偶然見つかったようですが、本格的な発掘調査は、昭和4年の京都大学により行われました。

昭和61年以降は、春日市が調査を行っており、須玖岡本遺跡岡本地区における主な調査とその成果は次のとおりです。

- 1・2次調査(昭和61・62年度)  
甕棺墓から多数の副葬品が出土しました。
- ▼ 15号甕棺墓…銅剣(写真①)
- ▼ 19号甕棺墓…ガラス小玉1269個(写真②)
- ▼ 20号甕棺墓…全長4・86センチメートルの大型ガラス勾玉(写真③)

③とガラス小玉824点以上(写真④)

※ 19・20号甕棺墓は王墓より新しい時期の甕棺墓で、ガラス勾玉は王墓出土品と似た大きさでした。

### ● 7次調査(平成2年度)

王墓で推定された墳丘墓が初めて確認されました。現在、墳丘はほとんど残っていませんが、墳丘墓の平面は18×30メートル程度の長方形、高さは2メートル以上と推測できます。時期は、出土した甕棺や土器から王墓よりやや古い時期に造られ、その後しばらくの間は埋葬に使われたようです。



▲王族墓の副葬品  
①銅剣 ②ガラス小玉 ③ガラス勾玉  
④ガラス小玉 ⑤鉄剣 ⑥鉄矛  
⑦青銅製把頭飾 ⑧銅剣

副葬品などの出土は次のとおりです。

▼ 7号甕棺墓…鉄剣(写真⑤)

▼ 10号甕棺墓…下甕の大きさは須玖遺跡群で最大級

▼ 12号甕棺墓…鉄矛(写真⑥)

※ 7・10・12号甕棺墓の棺内には、当時貴重品であった水銀朱が施されてきました。

### ● 20次調査(平成26・27年度)

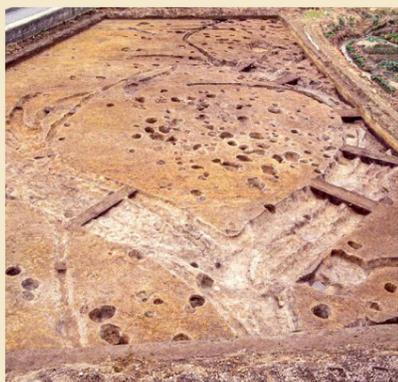
4号甕棺墓は、墓坑が5・2×3・9メートルと巨大で、王墓よりも古い時期の甕棺でした。青銅製把頭飾(剣を手で握る部分の飾り)(写真⑦)と銅剣(写真⑧)が副葬され、水銀朱や歯なども出土しました。歯からは、被葬者が成年(20〜40歳)だと分かりました。

## 青銅器の大量生産

朝鮮半島からもたらされた青銅器は、やがて国産化されるようになりました。ただし、海外からの原料の調達や技術者の確保が必要なため、有力な集落でしか生産ができませんでした。

春日北小学校の南側に位置する須玖岡本遺跡岡本地区(写真⑨)は「奴国の官営工房」と呼ばれ、他の遺跡では見られないような多くの工房跡や青銅器生産に関する遺物が出土しています。つまり、坂本地区にはハイテク技術を使った青銅器の工業地帯があったのです。

工房域は3000平方メートル以上と推測できます。周囲に直径10メートル程度の溝が巡り、複数の工房が溝でつな



▲⑨坂本地区の青銅器工房跡

がっています。この溝は、工房の排水や除湿のための工夫だと考えられます。発掘調査から、工房が何度も建て替えられ、周囲の溝も掘り直されたことが分かりました。

青銅器工房やその周辺からは、おびただしい数の青銅器生産に関する遺物が出土しています。青銅器をつくるための型は鋳型といい、石製で矛、剣、戈、鏃などの武器や小形鏡、小銅鐸(銅の鈴)などがあります。完形品の銅鏃(銅の矢)は、一度に49個の銅鏃をつくることができ、弥生時代の青銅器生産の技術の高さを知ることができます。

坂本地区では、1〜2世紀の間、銅矛



▲⑩銅鏃鋳型(表裏)

などの青銅器がつくられました。初めは個人の権威の象徴や武器としてつくられた銅矛は、やがて集団の祭器に変化します。この地で行われた銅矛などは、福岡平野だけでなく、九州、中国・四国や、対馬、朝鮮半島南部にまでもたらされと考えられます。

これまでの調査成果から、坂本地区以前の青銅器工房は点在していたようです。青銅器を大量生産し、遠方まで供給するために、一括管理しやすいように新たに坂本地区周辺に青銅器工房が集約された可能性があります。その背景には、強いリーダー、すなわち奴国王の存在が考えられます。

### もっと知りたくなったら

須玖岡本遺跡に関するリーフレット「ここまでわかった須玖岡本遺跡」を、奴国の丘歴史資料館で配布しています。より専門的に知りたい人は、須玖岡本遺跡の発掘調査報告書を同資料館または市民図書館で見ることができます。また、同報告書は奈良文化財研究所のウェブサイトで「全国遺跡報告総覧」でも見ることができます。

### 新たな発見の可能性

これまでの調査の積み重ねによって、王墓などの他にも新たな墳丘墓がある可能性も出てきました。

そして、未発見の王たちが居住した場所は、王墓、王族墓や官営工房(坂本地区)の隣接地である須玖坂本B遺跡(現在の春日北小学校内)が有力候補です。そこには、王宮や市場などがあつたのかもしれない。

現在、小学校の夏休み期間中に、少しずつ発掘調査を行っています。新たな発見があつた時は、お知らせします。



▲須玖坂本B遺跡の想像図

市職員が語る  
歴史講座  
ここまでわかった  
須玖岡本遺跡!!

発掘調査や展示に携わってきた文化財技師が、須玖岡本遺跡の墳墓や青銅器生産を中心に解説します。

日時 3月8日(土)  
午後1時30分〜3時30分

場所 同資料館研修室

内容

▽須玖岡本遺跡に葬られた人々たち  
▽須玖岡本遺跡の青銅器生産

定員 40人(申込先着順)

申込方法 2月3日(月)〜3月7日(金)に窓口、電話、ファクス、Eメールのいずれかで住所、氏名、年齢、電話番号を伝える

申込・問い合わせ先 同資料館  
TEL (501) 1144  
TEL (573) 1077

nakoku@city.kasuga.fukuok

ajp  
TEL 1015348